

「平田オリザの演劇ワークショップ」

担当教員名 平野井 ちえ子

コース概要

日程	2018 年 2 月 26 日～3 月 1 日
場所	こまばアゴラ劇場内青年団稽古場
参加人数	12 名

コースのねらい

対話と身体表現について感性を磨く体験学習を、コミュニケーション能力の向上に役立ててほしいと考えました。講師の平田先生には、文化政策的観点から最先端の話題をご提供いただきました。

内容

演劇ワークショップというと、「プロ向けで難しいのでは？」とか「大きな表現は恥ずかしい」などといった思い込みに基づくハードルの高さが想定されます。たしかに演出家のワークショップは、その方の演劇理念が集約されているので、「ついていけるかな」と心配する気持ちもわかります。本ワークショップは、そうした不安を払拭して、段階的にコミュニケーションとは何かを学んでいくものでした。基礎的なコミュニケーションゲームから始まり、平田先生のテキストを用いたワークショップを経て、最後にグループ創作を行いました。講義の部分では、芸術・教育・社会の関わりについて豊富な事例で解説していただきました。『下り坂をそろそろと下る』で論じられている内容を深く理解することができたと考えます。以下が4日間の概略です。

1 日目	オリエンテーションと簡単なコミュニケーションゲーム、テキストを使ったワークショップ、講義「芸術の役割」、青年団稽古見学『革命日記』
2 日目	テキストを使ったワークショップ、講義「社会のセーフティネット」と「大学入試改革」
3 日目	テキストを使ったワークショップ、グループ創作、講義「文化による社会包摂」、青年団稽古見学『革命日記』
4 日目	グループ創作、グループ創作の発表と質疑応答、劇団「Pure Nation」のリハーサル見学

グループ創作では、6人ずつのグループに分かれて、10分程度の演劇作品を創りました。互いのアイデアに耳を傾け、多様性を擦り合わせて一つの方向にまとめていくことは、社会の様々な局面で求められる能力です。しかも時間には必ず制約があります。プロダクトの質よりもプロセスで学んだことを大切にしてほしいと思います。

プロの劇団の稽古場は学生には非日常的な空間で、この場所でのワークショップは舞台の裏側にふれながらの臨場感あふれる贅沢な学習体験でした。また青年団の本番を控えた稽古見学もでき、演出家のワークショップと作品鑑賞のつながりを実地でたどることができました。国際舞台の第一線で活躍する演出家から直接指導を受けられて思い出深い経験となったことでしょう。劇団拠点の豊橋移転前にたいへん貴重な機会でした。

これを機会に、是非劇場に足を運んでください！

学習を終えて

F S 平田オリザの演劇ワークショップに参加した小藤裕隆さんの感想です。

このワークショップに参加することができて本当によかったです。前年7月に平田先生作・演出の『さよならだけが人生か』を観劇し、最近こまばアゴラ劇場についてレポートする機会もありました。自分一人で舞台を観たりその内容を考えたりしているうちは、よく理解しきれない部分も少なくなかったのですが、今回初めて平田先生から直接講義を受けたり演劇づくりの

指導を受けたりできて、平田演劇をどのように鑑賞したらよいのかがとてもよくわかり、感激しました。演劇の社会的役割をテーマとした講義も興味深かったです。



グループ創作に向け、学生が考えた状況設定について、アドバイスをいただきました。



行き詰ると、見るに見かねた平田先生の助け舟が出ました。頼り過ぎてはいけませんよ。



グループ別に人物づくりや物語の進行を相談しています。意見をまとめるのは大変ですね。



登場人物と物語の方向が見えてきたら、台詞と動作を考えます。